

進化経済学会ニューズレター

No.54 August 2023



(撮影：横田宏樹 藤枝総合運動公園のネムノキ)

進化経済学会事務局

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町 17-8

摂南大学経済学部

原田裕治研究室宛

- ✓ 第 27 回進化経済学会東京大会を終えて
- ✓ 第 28 回進化経済学会福井大会（福井県立大学）オータムコンファレンスのご案内
- ✓ **【重要】2022 年度未納会費および 23 年度会費納入のお願い**
- ✓ 第 27 回進化経済学会東京大会総会議事録
- ✓ 第 27 回進化経済学会東京大会理事会議事録
- ✓ （資料）進化経済学会会勢状況
- ✓ 第 27 回進化経済学会東京（立教大学）大会会計報告
- ✓ （資料 1）2021 年度収支計算書決算報告
- ✓ （資料 2）2022 年度収支計算書中間報告
- ✓ （資料 3）進化経済学会 2023 年度予算
- ✓ 2022 年度部会報告
- ✓ 「進化経済学」のオンライン連続模擬授業
- ✓ 編集後記

第 27 回進化経済学会東京大会を終えて

第 27 回東京大会実行委員会
委員長・池田毅（立教大学）

第 27 回の進化経済学会年次大会は 2023 年 3 月 18 日（土）、19 日（日）の両日にわたって、立教大学・池袋キャンパスを対面会場とし、オンライン会場（zoom）も併用しながら、ハイブリッド形式で開催されました。初日は生憎の雨となったため、対面会場での参加にはご足労をおかけすることになりましたが、参加者には事前にオンライン会場もお知らせしていたので、当日、急遽オンライン参加に切り替えられた方もおられたかと思います。こうした点は、ハイブリッド開催のメリットの一つと言えるかもしれません。最終的には二日間、対面参加が約 90 名、オンライン参加が約 30 名となりました。

また、ハイブリッド開催にあたり、従来、各報告者のご負担に委ねていた会場でのプレゼン資料の印刷配布も、web フォルダ上で電子ファイルを公開配布できる環境を設けました。全報告プレゼン資料について合計延べ約 900 回のダウンロードが記録されていますので、多くの方々にご利用いただけたのではないかと思います。大会予稿集については印刷配布しないという慣習は既に根付いていますが、今後は、報告用プレゼン資料についてもオンライン化・ペーパーレス化を進めることが、報告者・参加者の双方にとって利便性を増すように思われます。

今回の大会テーマは、開催校の特色を出すというオータムコンファレンスの慣例に倣い「AI（人工知能）と経済社会の未来」としましたが、年次大会では、AI と関連の深いビッグデータ分析や情報化・デジタル化に関する研究報告、今後の経済社会の未来を形作るイノベーションなどに関する研究報告が数多くなされました。加えて、進化経済学の理論的基礎付けや、制度と進化の政治経済学、経済思想・経済学史、金融政策に関する報告など、多種多様な研究報告がなされ、学際性を謳う本学会の特色を反映したものになったように思います。

なお、セッション数としては 15、報告数としては 43、加えて、4 つのポスターセッション報告がなされました。全面オンラインの前回大会より報告数は若干増えましたが、コロナ前の最後の対面開催となった名古屋大会の水準にはまだ回復していません。

また、研究報告以外としては、2 日目の午後に、谷口和久会員よりフェロー就任講演、黒瀬一弘会員より学会賞受賞講演がなされました。それぞれ興味深い内容のお話を頂戴し、非常に有意義な講演となりました。

初日の夕刻には、実に 4 年ぶりの対面での懇親会を開催することができました。約 50 名の方にご参加いただき、賑やかなひと時を過ごすことができました。やはり懇親会は対面ならではのもの、とあらためて実感できる機会になったように思います。なお、年次大会にあわせて学会オンライン企画（Gather.town）も参加費無料の形で開催し、懇親会の際は対面

会場と Gather.town 会場との接続も行いました。

ハイブリッド開催にあたり、対面会場のほうは大きなトラブルなく進行できましたが、オンライン会場のほうでは若干の音声トラブルがあったようです。もっとも、参加者の皆様のご協力とともに、実行委員が各会場に張り付く形をとることができたため、音声トラブルも最小限に抑えることができたのではないかと思います。ちなみに今回、各会場に実行委員が張り付く形がとれたのも、たまたま開催校に所属する会員数が多く、大会実行委員会を比較的多数で組織することができたためです。今後、ハイブリッド開催を大会の標準的なスタイルとするのであれば、オンライン会場を管理する人員の手当なども課題として残されているように思います。

次回大会は福井県立大学で開催されます。開催形態については未だ流動的な部分もあるかと思いますが、次回大会が大きな成功を収めることを祈念して、第27回東京大会の開催報告といたします。



第 28 回進化経済学会福井大会（福井県立大学）オータムコンファレンスのご案内

テーマ：空間の進化経済学とその可能性

進化経済学はさまざまな応用分野を持つが、その中でもその「空間」への応用は、特に実りの多いもののひとつであると言えるのではないだろうか。実際、生産システムに注目するにせよ、学習システムに注目するにせよ、地域における産業の集積やイノベーションの創出・波及過程を理解しようとする際に、経路依存性・ロックインの概念やルーティンの創造・複製・転移の概念などの進化経済学の枠組みは、新古典派的なそれと比べて極めて有効性が高いように思える。それゆえ、本大会では、改めて産業の立地論・集積論は当然のことながら、地域経済論や地域統合論など、さまざまな進化経済学の空間への応用の可能性を探ってみることとしたい。

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

□オータムコンファレンス

日時：2023年9月16日（土）

場所：福井織協ビル 602 会議室（JR 福井駅から徒歩圏内）

*会場 HP：<https://www.senkyobldg.or.jp/>

オータムコンファレンスでは、大会のテーマ「空間の進化経済学とその可能性」に沿って特に「進化経済地理学の成果と課題」という内容で開催いたします。

▷シンポジウム 13:00～16:00 対面：ZOOM 同時配信予定

- 1) 九州大学 基幹教育院 准教授 外柙保大介
進化経済地理学の近年の研究動向
- 2) 神戸大学大学院経済学研究科・教授 橋野知子
福井産地の形成・発展・進化に関する歴史的考察－技術・製品・市場
- 3) 福井県立大学地域経済研究所 所長 松原 宏
技術軌道を通じた工場の進化と地域の進化

▷ライブプレゼン・フェス 2023

同日、同会場にて 16:00～17:00 対面：ZOOM 同時配信予定

今大会のオータムコンファレンスでも、「ライブプレゼン・フェス 2023」を予定しております。詳細および参加申し込みについては、大会 web サイトをご覧ください。

なお、今大会は地域公共政策学会との共催となります。

□年次大会

日時：2024年3月16日（土）・17日（日）

報告申込み、プログラム等については、大会 web サイトやメーリングリストにて逐次ご案内いたします。

大会実行委員会：廣瀬弘毅（委員長・福井県立大学経済学部）、渡邊敏生（副委員長・福井県立大学経済学部）、服部茂幸（同志社大学商学部）

大会 web サイト：<https://jafee.org/2023fukui/>

【重要！】2022 年度未納会費および 23 年度会費納入のお願い

会長 磯谷明德
副会長 吉田雅明
事務局長 原田裕治
会計 西 洋

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

学会創設から四半世紀余りが過ぎ、わが国の経済学・社会科学系学界において独自の位置を占めるに至った本学会の諸活動に、平素よりご貢献・ご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、この度は会員の皆さまに、学会執行部より喫緊かつ重要なお願いを申し上げたいと存じます。2022 年 2 月の会長挨拶でも触れましたように、現執行部では学会活動・運営に関わる多くの側面をデジタル化することを積極的に進めて参りました。2022 年度には「オンライン会員情報管理システム」(マイページ) が導入され、それに伴い、**学会費の納入についてはこれまでの払い込み票の学会員への郵送は行われなくなりました。**学会費の納入は、昨年度より、このマイページを通して行うようになりました。このシステムの利用方法については、可能な限りの周知に努めてきたつもりですが、その活用はまだ全ての学会員の皆さまに十分に浸透するところまでには至っていないというのが現状のようです。

こうした状況が一因かと思われませんが、2022 年度の学会会計の決算において**会費収入が対前年度比で 25%の大幅減**となっています。この減少は**正会員の皆さまからの会費未納**が約 80 件ほどにも達したことによるものです。言うまでもなく、学会活動は全面的に皆さま方からの会費に依っています。この会費収入によってはじめて、学会英文誌 EIER の刊行(7 月 29 日付八木紀一郎先生からの学会 ML にある通り着実に EIER はその存在感を増してきています) や年次大会・オータムコンファレンスの開催、各部会への補助等が可能となります。**進化経済学の灯を絶やすことなく、さらに拡げていくために、会員の皆さま方には、本年度会費の納入とあわせまして、22年度未納の方にはぜひとも早急にご納入くださいますよう、切に切にお願い申し上げます。**

なお、23 年度の学会費納入については、学会 HP (<http://jafee.org/>) のフロントページに「2023 年度会費について」というお知らせがあります。是非とも、ご一読ください。またマイページへは、学会 HP 上部メニューにある「会員ページ」の中の「マイページログイン」よりアクセスすることができます。「会員ページ」には「会員情報システム用マニュアル」もございますので、どうかご活用ください。

ご不明な点がございましたら、事務局 (info@jafee.org) までお尋ねいただきますればと存じます。

2023 年 7 月 31 日

第 27 回進化経済学会東京大会総会議事録

日時：2023 年 3 月 19 日（日）13:00~13:45

場所：対面およびオンラインのハイブリッド開催

1. 議長の選出
遠山弘徳会員を議長に選出した
2. 磯谷明德会長挨拶
磯谷明德会長より東京大会開催に際して挨拶があった
3. 池田毅大会実行委員長より開催状況報告
服部茂幸実行委員長より大会開催状況報告があった
4. 会勢報告 資料 1
原田事務局担当理事より資料に基づき会勢について説明があった上で入退会について提案され、了承された
5. 2021 年度決算報告ならびに監査報告 資料 2
西会計担当理事による説明、黒瀬監査担当理事による監査報告がそれぞれ行われ、2021 年度の会計決算報告が了承された
6. 2022 年度決算中間報告 資料 3
西会計担当理事が 2022 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された
7. 2023 年度予算について 資料 3
西会計担当理事が 2023 年度の予算案について説明を行い、了承された
8. 第 8 回学会賞ならびに第 4 回奨励賞の募集について 資料 4
原田事務局担当理事より第 8 回学会賞および第 4 回奨励賞の選考委員ならびに募集要項について報告があった
9. 会則・細則の改正について 資料 5
原田事務局担当理事よりオンラインの会員情報管理システム導入に合わせた会則改正が提案され、了承された。また理事会で承認された役員選挙細則の改正についても報告された。
10. 各種委員会報告
宮崎 JAFEE 通貨運営委員長より JAFEE 通貨についての案内があり、利用申請が呼びかけられた
11. 次年度開催校について
原田事務局担当理事より次年度のオータムコンファレンスおよび本大会は 福井県立大学で開催予定である旨報告があった。また日程は調整中で、決まり次第 ML や学会ホームページを通じて告知されることが報告された。

1 2. 2022 年度フェローの発表とフェロー就任講演

2022 年度フェローとして、谷口和久会員が選出されたことが発表され、記念楯が贈呈された。フェローに就任した谷口会員による記念講演が行われた。

1 3. 第 7 回学会賞・第 3 回奨励賞の発表と記念講演

第 7 回（2022 年度）学会賞が、黒瀬一弘会員の論文 Kurose, Kazuhiro, "A two-class economy from the multi-sectoral perspective: the controversy between Pasinetti and Meade–Hahn–Samuelson–Modigliani revisited." (*Evolutionary and Institutional Economics Review*, 2022,19(1), 239-270) に授与されることが発表され、記念品が贈呈された。受賞した黒瀬会員による記念講演が行われた。

また第 3 回（2022 年度）奨励賞は該当者なしとの報告があった。

文責：事務局担当理事 原田裕治

第 27 回進化経済学会東京大会理事会議事録

日時：2023 年 3 月 18 日（土）12:00~12:45

場所：対面+オンラインのハイブリッド開催

出席者：磯谷明德（会長）、吉田雅明（副会長）、池田毅（大会実行委員長）、浅田統一郎、荒川章義、有賀裕二、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、岡敏弘、小川一仁、黒瀬一弘（監査）、巖成男、瀬尾崇、遠山弘徳、徳丸宣穂、中原隆幸、鍋島直樹、西洋（会計）、西部忠、橋本敬、服部茂幸、廣瀬弘毅、藤田菜々子（監査）、藤本隆宏、宮崎義久、八木紀一郎、原田裕治（事務局）

欠席（委任状あり）：吉井哲

欠席（委任状なし）：佐々木啓明、澤邊紀生、塩沢由典、瀧澤弘和、

オブザーバー：吉田和男（以上、敬称略）

1. 報告

1. 1 会長挨拶

磯谷会長より東京大会開催に際して挨拶があった

1. 2 第 27 回東京大会参加状況について

大会実行委員長より大会開催状況報告があった

1. 3 会勢報告

原田事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった

資料 1

1. 4 日本経済学会連合報告

池田担当理事より資料閲覧の形で評議会の報告があった

資料 2

1. 5 各部会報告

ニューズレターに掲載のため省略

1. 6 各委員会報告

1. 7 第 28 回大会について

廣瀬理事より次年度のオータムコンファレンスおよび本大会は福井県立大学で開催予定である旨報告があった。なお日程については決まり次第周知する旨報告があった。

2. 議題

2. 1 入退会について

原田事務局担当理事より入会希望者及び退会者の提案がなされ、提案通り了承された。

資料 1

2. 2 2022 年度決算中間報告

西会計担当理事が 2022 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された。

資料 3

2. 3 2023 年度予算について

西会計担当理事が 2023 年度予算案について説明を行い、了承された。

資料 3

2. 4 進化経済学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員の交代について

原田事務局担当理事より、次年度の学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員が、小川一仁(関西大学)(委員長)(留任)、稲水伸行(東京大学)(留任)、遠山弘徳(追手門学院大学)(新任)、徳丸宣穂(関西大学)(新任)となることが提案され、了承された。

2. 5 第8回学会賞および第4回奨励賞の募集要項について

資料4

原田事務局担当理事より、第8回学会賞および第4回奨励賞の募集要項について提案され、了承された。

2. 6 会則・細則の改正について

資料5

原田事務局担当理事より、会員情報システムの導入に伴う役員選挙細則の改正が提案され、了承された。

3. その他

なし

文責：事務局担当理事 原田裕治

進化経済学会会勢状況

2022年9月9日 時点

| | | |
|---------|-----|---------|
| 個人会員 | 316 | (体会4含む) |
| 個人終身正会員 | 18 | |
| 院生会員 | 36 | (体会3含む) |
| 賛助会員/団体 | 0 | |
| 賛助会員/特別 | 0 | |
| 招待会員 | 2 | |
| 個人準会員 | 0 | |
| 372 | | |

2023年4月1日 時点

| | | |
|---------|-----|---------|
| 個人会員 | 312 | (体会4含む) |
| 個人終身正会員 | 19 | |
| 院生会員 | 38 | (体会3含む) |
| 賛助会員/団体 | 0 | |
| 賛助会員/特別 | 0 | |
| 招待会員 | 2 | |
| 個人準会員 | 0 | |
| 371 | | |

第 27 回進化経済学会東京（立教大学）大会会計報告

2023 年 3 月 18 日会計担当理事

西 洋（阪南大学）

1. 2021 年度（令和 3 年度）収支計算報告

- 資料 1「監査済 2021 年度収支計算書決算報告」参照

2. 2022 年度（令和 4 年度）収支計算中間報告（2022/4/1/～2023/2/15）

- 具体的な内訳については資料 2「2022 年度収支計算書中間報告」参照

【収入と支出：2022/4/1/～2023/2/15】

| | 収入 | | | 支出 | | | 増減 |
|--------|-----------|--------------|----------|--------|--------------|-----------|------------|
| | 予算案 | 22 年度 決済額 | 増減 | 予算案 | 22 年度 決済額 | 増減 | |
| 当期収入合計 | 3,001,000 | 2,237,103 | -763,897 | 当期支出合計 | 4,275,000 | 2,464,223 | -1,810,777 |
| 前期繰越金 | 5,394,446 | 5,394,446 | 0 | 繰越金 | 4,120,446 | 5,167,326 | 1,046,880 |
| 総計 | 8,395,446 | 7,631,549 | -763,897 | 総計 | 8,395,446 | 7,631,549 | -763,897 |

【貸借対照表：2022/4/1/～2023/2/15】

| 借方 | | 貸方 | |
|-----------|-----------|-------|-----------|
| 普通預金 | 303,518 | 前受会費 | 10,000 |
| 郵便振替 | 4,368,808 | 前期繰越金 | 5,394,446 |
| コンビニ払い未入金 | 105,000 | | |
| 仮払金 | 400,000 | 当期差益 | -227,120 |
| 合計 | 5,177,326 | 合計 | 5,177,326 |

【収入と支出：2022/4/1/～2023/2/15 見込みについては資料 2 を参照】

3. 2023 年度（令和 5 年度）予算案

- 具体的な内訳については資料 3「進化経済学会 2023 年度予算（案）」参照

| | 収入 | | | 支出 | | | 増減 |
|-------|--------------|---------------|----------|--------------|---------------|-----------|----------|
| | 23 年度 予算案 | (参考) 22 年度 | 増減 | 23 年度 予算案 | (参考) 22 年度 | 増減 | |
| 前期繰越金 | 5,696,267 | 4,874,973 | -821,294 | 当期支出合計 | 4,127,000 | 4,275,000 | 148,000 |
| 収入 | 2,604,000 | 3,001,000 | 397,000 | 繰越金 | 4,173,267 | 3,600,973 | -572,294 |
| 総計 | 8,300,267 | 7,875,973 | -424,294 | 総計 | 8,300,267 | 7,875,973 | -424,294 |

【収入・支出項目については次の点に注意】

- ・ 大会収入はオータムカンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭にコロナ禍（21、22年度）の予算の二倍の金額で計上（参考：コロナ前2019はオータム10万円、本大会60万円）。
- ・ 通信費、事務用品費、謝金、送金手数料、予備費は2022年度の支出実績が予算の半分に満たなかったため、22年度比20%減で計上。
- ・ 事務委託費の見積もりは、200,000円弱であるが、ゆとりを持たせて350,000円を計上。（2021年度まで約650,000円を支出していたので、およそ53%の支出削減）。

以上

進化経済学会
2021年度 収支計算書
(2021年4月1日～2022年3月31日)

| 取入 | | 増減 | | | 支出 | 増減 | | |
|--------|---------------|-----------|-----------|----------|--------------|-----------|-----------|----------|
| | | 予算 | 決算額 | 増減 | | 予算 | 決算額 | 増減 |
| 会費 | | 2,919,000 | 3,467,000 | 548,000 | 大会費 | 400,000 | 191,833 | -208,167 |
| | 正会員当該年度 | 2,750,000 | 2,710,000 | -40,000 | オータム・コンファレンス | 400,000 | 57,585 | -342,415 |
| | 正会員過年度分 | | 450,000 | 450,000 | 本大会 | 0 | 134,248 | 134,248 |
| | 終身正会員当該年度 | 50,000 | 50,000 | 0 | 英文誌編集発行費 | 2,200,000 | 2,200,000 | 0 |
| | 院生会員当該年度 | 115,000 | 110,000 | -5,000 | 通信費 | 20,000 | 5,568 | -14,432 |
| | 院生会員過年度分 | | 35,000 | 35,000 | 交通費 | 0 | 0 | 0 |
| | 準会員 | 4,000 | 2,000 | -2,000 | 事務用品費 | 80,000 | 38,564 | -41,436 |
| | 賛助会員当該年度 | 0 | 0 | 0 | 謝金 | 20,000 | 22,000 | 2,000 |
| | その他(前受会費) | | 110,000 | 110,000 | 送金手数料 | 20,000 | 10,735 | -9,265 |
| 大会取入 | | 200,000 | 80,001 | -119,999 | 会議費 | 0 | 0 | 0 |
| | オータム・コンファレンス | 50,000 | 25,000 | -25,000 | 印刷費 | 0 | 0 | 0 |
| | 本大会 | 150,000 | 55,000 | -95,000 | 事務委託費 | 650,000 | 608,956 | -41,044 |
| | CD販売・受取利息 | 0 | 1 | 1 | 国際交流費 | 0 | 0 | 0 |
| 利息 | | 0 | 8 | 8 | 部会補助費 | 150,000 | 0 | -150,000 |
| 寄付金 | | 0 | 1 | 1 | 経済学会連合会費 | 35,000 | 35,000 | 0 |
| 書籍売却代 | | 0 | 0 | 0 | 学会賞 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 定期購読料 | | 0 | 0 | 0 | 振替票送付代 | 0 | 14,520 | 14,520 |
| 利用料 | 『進化経済学ハンドブック』 | 6,000 | 0 | -6,000 | | | 0 | |
| 印税収入 | シュプリンガー・モノグラフ | 28,000 | 0 | -28,000 | 予備費 | 850,000 | 804,600 | -45,400 |
| 当期収入合計 | | 3,153,000 | 3,547,010 | 394,010 | 当期支出合計 | 4,525,000 | 4,031,776 | -493,224 |
| 前期繰越金 | | 5,879,212 | 5,879,212 | 0 | 繰越金 | 4,507,212 | 5,394,446 | 887,234 |
| 総計 | | 9,032,212 | 9,426,222 | 394,010 | 総計 | 9,032,212 | 9,426,222 | 394,010 |

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2022年 8月 3日

進化経済学会監査委員

黒瀬 一 弘

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2022年 8月 6日

進化経済学会監査委員

藤田 菜々子

資料1

貸借対照表
(2022年3月31日現在)

| 借方 | | 貸方 | |
|--------|-----------|----------|-----------|
| I 流動資産 | | II 流動負債 | |
| 現金 | | 前受会費 | 10,000 |
| 預金 | | | |
| 普通預金 | 836,755 | | |
| 郵便振替 | 4,279,523 | | |
| | | | |
| 未収金 | 288,168 | III 正味財産 | |
| | | 次期繰越金 | |
| | | 前期繰越金 | 5,879,212 |
| | | 当期差益 | -484,766 |
| 合計 | 5,404,446 | 合計 | 5,404,446 |

財産目録
(2022年3月31日現在)

| (資産の部) | | | (単位:円) | |
|--------|-------------|--------------|-----------|-----------|
| 科目 | 管理部門 | 金融機関 | 金額 | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金 | | | | |
| 預金 | 会計担当理事 | りそな銀行(天美出張所) | 836,755 | |
| | 学会事務局(国際文献) | 郵便振替口座 | 4,279,523 | |
| 未収金 | 第26回大会残金 | | | 288,168 |
| 資産合計 | | | | 5,404,446 |

| (負債および正味財産の部) | | | (単位:円) | |
|---------------|----|--------|-----------|-----------|
| 科目 | 適用 | 金額 | 金額 | |
| 流動負債 | | | | |
| 前受会費 | | 10,000 | | 10,000 |
| | | | | |
| 負債合計 | | | | 10,000 |
| 正味財産合計 | | | | |
| | | 前期繰越金 | 5,879,212 | |
| | | 当期収支差額 | -484,766 | |
| 負債及び正味財産合計 | | | | 5,404,446 |

進化経済学会

2022年度 収支計算書中間報告
(2022年4月1日～2023年2月15日)

(単位：円)

| 収入 | 予算案 | 決算額 | 増減 | 支出 | 予算案 | 決算額 | 増減 |
|---------------|------------------|-----------|----------|---------------|-----------|-----------|------------|
| 会費 | 2,767,000 | 2,175,000 | -592,000 | 大会費 | 1,100,000 | 0 | -1,100,000 |
| 正会員当該年度 | 2,600,000 | 1,720,000 | -880,000 | オースタム・コンファレンス | 400,000 | 0 | -400,000 |
| 正会員過年度分 | 0 | 210,000 | 210,000 | 本大会 | 700,000 | 0 | -700,000 |
| 終身正会員当該年度 | 50,000 | 150,000 | 100,000 | 英文誌編集発行費 | 2,200,000 | 2,200,000 | 0 |
| 院生会員当該年度 | 105,000 | 50,000 | -55,000 | 通信費 | 20,000 | 5,568 | -14,432 |
| 院生会員過年度分 | 0 | 25,000 | 25,000 | 交通費 | 0 | 0 | 0 |
| 準会員 | 2,000 | 0 | -2,000 | 事務用品費 | 80,000 | 0 | -80,000 |
| 賛助会員当該年度 | 0 | 0 | 0 | 謝金 | 20,000 | 0 | -20,000 |
| JAFEE通貨寄付 | 0 | 0 | 0 | 送金手数料 | 20,000 | 5,305 | -14,695 |
| その他(前受会費：預り金) | 10,000 | 20,000 | 10,000 | 会議費 | 0 | 0 | 0 |
| 大会収入 | 200,000 | 0 | -200,000 | 印刷費 | 0 | 0 | 0 |
| オースタム・コンファレンス | 50,000 | 0 | -50,000 | 事務委託費 | 450,000 | 217,800 | -232,200 |
| 本大会 | 150,000 | 0 | -150,000 | 国際交流費 | 0 | 0 | 0 |
| 利息 | 0 | 3 | 3 | 部会補助費 | 150,000 | 0 | -150,000 |
| 寄付金 | 0 | 20,000 | 20,000 | 経済学会連合会費 | 35,000 | 35,000 | 0 |
| 書籍売却代 | 0 | 0 | 0 | 学費賞 | 100,000 | 0 | -100,000 |
| 定期購読料 | 0 | 0 | 0 | 振替票送付代 | 0 | 550 | 550 |
| 利用料 | 「進化経済学ハンドブック」 | 6,000 | 3,114 | -2,886 | 0 | 0 | 0 |
| 印刷収入 | 「シュプリンガー・モノグラフS」 | 28,000 | 38,986 | 10,986 | 予備費 | 100,000 | 0 |
| 当期収入合計 | 3,001,000 | 2,237,103 | -763,897 | 当期支出合計 | 4,275,000 | 2,464,223 | -1,810,777 |
| 前期繰越金 | 5,394,446 | 5,394,446 | 0 | 繰越金 | 4,120,446 | 5,167,326 | 1,046,880 |
| 総計 | 8,395,446 | 7,631,549 | -763,897 | 総計 | 8,395,446 | 7,631,549 | -763,897 |

2022年度 収支計算書中間報告(2023年3月31日時点の見込み)
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

| 収入 | 予算案 | 決算額 | 増減 | 支出 | 予算案 | 決算額 | 増減 |
|---------------|------------------|-----------|----------|---------------|-----------|-----------|------------|
| 会費 | 2,757,000 | 2,405,000 | -352,000 | 大会費 | 1,100,000 | 532,584 | -567,416 |
| 正会員当該年度 | 2,600,000 | 1,950,000 | -650,000 | オースタム・コンファレンス | 400,000 | 36,000 | -364,000 |
| 正会員過年度分 | 0 | 210,000 | 210,000 | 本大会 | 700,000 | 496,584 | -203,416 |
| 終身正会員当該年度 | 50,000 | 150,000 | 100,000 | 英文誌編集発行費 | 2,200,000 | 2,200,000 | 0 |
| 院生会員当該年度 | 105,000 | 50,000 | -55,000 | 通信費 | 20,000 | 5,568 | -14,432 |
| 院生会員過年度分 | 0 | 25,000 | 25,000 | 交通費 | 0 | 0 | 0 |
| 準会員 | 2,000 | 0 | -2,000 | 事務用品費 | 80,000 | 20,681 | -59,319 |
| 賛助会員当該年度 | 0 | 0 | 0 | 謝金 | 20,000 | 0 | -20,000 |
| JAFEE通貨寄付 | 0 | 0 | 0 | 送金手数料 | 20,000 | 7,065 | -12,935 |
| その他(前受会費：預り金) | 10,000 | 20,000 | 10,000 | 会議費 | 0 | 0 | 0 |
| 大会収入 | 200,000 | 977,503 | 777,503 | 印刷費 | 0 | 0 | 0 |
| オースタム・コンファレンス | 50,000 | 476,501 | 426,501 | 事務委託費 | 450,000 | 253,277 | -196,723 |
| 本大会 | 150,000 | 501,002 | 351,002 | 国際交流費 | 0 | 0 | 0 |
| 利息 | 0 | 3 | 3 | 部会補助費 | 150,000 | 34,540 | -115,460 |
| 寄付金 | 0 | 20,000 | 20,000 | 経済学会連合会費 | 35,000 | 35,000 | 0 |
| 書籍売却代 | 0 | 0 | 0 | 学費賞 | 100,000 | 50,000 | -50,000 |
| 定期購読料 | 0 | 0 | 0 | 振替票送付代 | 0 | 550 | 550 |
| 利用料 | 「進化経済学ハンドブック」 | 6,000 | 3,114 | -2,886 | 0 | 0 | 0 |
| 印刷収入 | 「シュプリンガー・モノグラフS」 | 28,000 | 38,986 | 10,986 | 予備費 | 100,000 | 23,520 |
| 当期収入合計 | 3,001,000 | 3,464,606 | 463,606 | 当期支出合計 | 4,275,000 | 3,162,785 | -1,112,215 |
| 前期繰越金 | 5,394,446 | 5,394,446 | 0 | 繰越金 | 4,120,446 | 5,696,267 | 1,575,821 |
| 総計 | 8,395,446 | 8,859,052 | 463,606 | 総計 | 8,395,446 | 8,859,052 | 463,606 |

【注記】

- 本報告書は以下の4点
①2022年度 収支計算書中間報告(2022年4月1日～2023年2月15日) ②2022年度 収支計算書中間報告(2023年3月31日の見込み)
③貸借対照表(2023年2月15日時点) ④財産目録(2023年2月15日時点)
- 収支計算書について、「会費」は2023年2月15日時点と2023年3月12日時点での実現値を同額計上しているが、3月中の納付によって増減する。
- 収支計算書について、「大会収入」と「大会費」は2023年3月12日までに大会実行委員会から報告があった金額を計上している。2022年度オースタム・コンファレンスおよび本大会の実際の収入・支出額は、大会実行委員会からの収支報告を要し次第確定する。
- 収支計算書について、「進化経済学ハンドブック」と「シュプリンガー・モノグラフS」の印刷収入は2022年4月以降に収入があったものを記載している。
- 収支計算書について、寄付金20,000円は日本経済学会連合に磯谷明徳会長が寄贈された英文年報への「資料代」を寄付していただいた金額である。
- 貸借対照表と財産目録について、2023年2月15日時点では「コンビニ払い未入金(10,500円)」はサトウ社が管理していたことを表す(2023年3月中に学会ゆうちょ銀行口座へ振り込み)。

2023年3月18日

貸借対照表
(2023年2月15日現在)

(単位：円)

| 借方 | | 貸方 | |
|-----------|-----------|----------|-----------|
| I 流動資産 | | II 流動負債 | |
| 現金 | | 前受会費 | 10,000 |
| 預金 | | | |
| 普通預金 | 303,518 | | |
| 郵便振替 | 4,368,808 | | |
| コンビニ払い未入金 | 105,000 | | |
| 仮払金 | | III 正味財産 | |
| | 400,000 | 次期繰越金 | |
| | | 前期繰越金 | 5,394,446 |
| | | 当期差益 | -227,120 |
| 合計 | 5,177,326 | 合計 | 5,177,326 |

財産目録

(2023年2月15日現在)

(単位：円)

| 資産の部 | | 負債の部 | |
|------|-------------|-------------|-----------|
| 科目 | 管理部門 | 金融機関 | 金額 |
| 流動資産 | | | |
| 現金 | | | |
| 預金 | 会計担当理事 | りそな銀行(実支出所) | 303,518 |
| | 学会事務局(国際文庫) | 郵便振替口座 | 4,368,808 |
| | サトウ | コンビニ払い未入金 | 105,000 |
| | 仮払金 | 大会準備金 | 400,000 |
| 資産合計 | | | 5,177,326 |

負債および正味財産の部

(単位：円)

| 科目 | 適用 | 金額 |
|------------|--------|-----------|
| 流動負債 | | |
| 前受会費 | | 10,000 |
| 負債合計 | | 10,000 |
| 正味財産合計 | | |
| | 前期繰越金 | 5,394,446 |
| | 当期収支差額 | -227,120 |
| 負債及び正味財産合計 | | 5,177,326 |

進化経済学会 2023年度予算(案)

(2023年4月1日 ~ 2024年3月31日)

(単位:円)

| 収入予算 | | 支出予算 | |
|-----------------|-----------|-------------|-----------|
| | 予算額 | | 予算額 |
| 2022年度からの繰越(見込) | 5,696,267 | 大会費 | 1,100,000 |
| | | (内訳) | |
| | | オータムカンファレンス | 400,000 |
| | | 本大会 | 700,000 |
| | | 英文誌編集刊行費 | 2,200,000 |
| 会費 | 2,170,000 | | |
| (内訳) | | | |
| 正会員 | 1,950,000 | 通信費 | 16,000 |
| 終身正会員(同上) | 150,000 | 事務用品費 | 64,000 |
| 院生会員(同上) | 50,000 | 謝金 | 16,000 |
| 準会員(同上) | 0 | 送金手数料 | 16,000 |
| 賛助会員(同上) | 0 | | |
| JAFEE通貨寄付(同上) | 0 | 事務委託費 | 350,000 |
| その他(前受会費) | 20,000 | | |
| 大会収入 | 400,000 | | |
| (内訳) | | 部会補助費 | 150,000 |
| オータムカンファレンス | 100,000 | 学会賞 | 100,000 |
| 本大会 | 300,000 | 経済学会連合会費 | 35,000 |
| 書籍売却代(見込) | 0 | 予備費 | 80,000 |
| 定期購読料(同上) | 0 | 小計 | 4,127,000 |
| 利用料(同上) | 6,000 | | |
| 印税(同上) | 28,000 | 2024年度への繰越 | 4,173,267 |
| 総計 | 8,300,267 | 総計 | 8,300,267 |

【注記:当初予算】

収入側

1. 繰越金と会費収入は2023年3月12日時点での実現値を計上しているが、3月中の納付によって微増する(ここに過年度分の支払いも加わる)。
2. 大会収入はオータムカンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭にコロナ禍(21、22年度)の予算の二倍の金額で計上(参考:コロナ前2019はオータム10万円、本大会60万円)。
3. 2021年度から新項目として、利用料(進化経済学ハンドブック)および印税(シュプリンガー・モノグラフシリーズ)を設置。
4. 2022年度から新項目として、JAFEE通貨寄付を設置(ただし2023年度は円とのリンクはない予定)。
5. 2023年度において、22年度からの前受会費が2件20,000円あり。これを会費収入に含めている。

支出側

1. 大会費はオータムカンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に計上。
2. 英文誌編集刊行費、部会補助費、学会賞、経済学会連合会費は、学会活動の本質かつ定額支出が予想されているため、前年度予算額を計上。
3. 通信費、事務用品費、謝金、送金手数料、予備費は2022年度の支出実績が予算の半分に満たなかったため、22年度比で20%減で計上。
4. 事務委託費の見積もりは、200,000円弱であるが、ゆとりを持たせて350,000円を計上。(2021年度まで約650,000円を支出していたので、およそ53%の支出削減)。

2022 年度部会報告

■ 現代日本の経済制度部会

第 1 回研究会

日時：2022 年 5 月 22 日 14:00 から 17:30

場所：Zoom

テーマ：「ウェルビーイングと人間形成主導型成長レジームの基盤を考える」

・浦川邦夫（九州大学）「主観的厚生 of 経済学—先行研究のサーベイ」

・内藤敦之（大月短期大学）「コロナ禍の日本経済—ポスト・ケインジアンと認知資本主義による分析」

17:10-17:15 まとめと連絡

第 2 回研究会

日時：2022 年 9 月 3 日（土）10:50 から 17:50

場所：千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス

テーマ：「Evolutionary economics after *Microfoundation of evolutionary economics*」

第 1 部

・塩沢由典（大阪市立大学）「経済学の基礎を問う」

・谷口和久（近畿大学）「SMT 数量調整経済の発見と課題」

・森岡真史（立命館大学）「進化経済学の基礎としての数量調整理論」

第 2 部

・生稲史彦（中央大学）「経済学と経営学の補完関係—研究課題と研究アプローチ」

・磯谷明德（下関市立大学）「SMT における進化経済学の可能性—概念化と方法を中心に—」

・植村博恭（横浜国大学）「レギュラシオン理論とポスト・ケインジアン理論の補完的発展：成長レジーム分析に SMT 理論を活かす」

・黒瀬一弘（東北大学）「進化経済学の未来：ポストケインジアンの立場から」

・吉岡努（東洋大学）「進化経済学の視点に基づく多部門モデル：産業連関分析との比較」

第 3 部

・SMT の執筆者からのリプライ&フロアも交えた総合ディスカッション

第 3 回研究会

日時：2022 年 12 月 3 日（土）13:00 から 17:30

場所：名古屋大学経済学部棟 2階第3講義室

第1部：山田鋭夫『ウェルビーイングの経済』（藤原書店，2022年）をめぐって

- ・岡部洋實氏（北海道大学・名）「『ウェルビーイングの経済』を読む」
- ・藤田菜々子氏（名古屋市立大学）「『ウェルビーイングの経済』を読む」
- ・山田鋭夫氏（名古屋大学・名）「著者からのリプライ」
- ・全体討論

第2部：ボワイエ『経済学の認識論』（山田鋭夫訳，藤原書店，2022年）をめぐって

- ・鍋島直樹氏（名古屋大学）「『経済学の認識論』を読む」
- ・山本泰三氏（大阪産業大学）「『経済学の認識論』を読む」
- ・山田鋭夫氏（名古屋大学・名）「訳者からのリプライ」
- ・全体討論
- ・おわりに

第4回研究会

日時：2023年3月17日（金）14:00 から 17:30

テーマ：成長モデル(Growth model)を考える：歴史・思想・新しい政治経済学？

場所：千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス（Zoom 併用）

第1部

- ・藤田菜々子（名古屋市立大学）「スウェーデン・モデルへの経済学史的アプローチ」
- ・八木紀一郎（京都大学・名）「モノグラフから歴史へ：経済学史研究における総合のありかた」
- ・徳丸宜穂（関西大学）「藤田菜々子『社会をつくった経済学者たち』へのコメント」

第2部

・遠山弘徳（追手門学院大学）Baccaro, Blyth, and Pontusson, eds., "Diminishing Returns: The New Politics of Growth and Stagnation"を読む — サプライサイド型資本主義の多様性論から PK 型資本主義の多様性論へ

- ・17:20 - 17:30 おわりに

■ 進化経済学会北海道・東北部会

2022年度、以下の活動を行いましたのでご報告申し上げます。

2023年3月21日(14:00-17:00)に札幌市立大学サテライトキャンパスにおいて対面で進化経済学会北海道・東北部会を開催しました。

【第1報告】

小林大州介(星槎道都大学)

「初期シュンペーター理論の進化的要素とその矛盾点について」

【第2報告】

小池(相原)晴伴(酪農学園大学)

「制度改革下の米需給・価格と水田作」

【第3報告】

吉田昌幸(上越教育大学)・小林重人(札幌市立大学)・宮崎義久(仙台高等専門学校)

「教育大学における地域経済の学習シミュレーションの開発」

まず初めに小林大州介会員から、若かりし頃のシュンペーターが様々な進化論の影響を受けた可能性があること、そしてそれが1920年代以降に様々な矛盾や問題が生じさせたことについて報告された。続いて小池晴伴会員から減反廃止後の米の需給と価格変動についてデータを示しながら市場安定化に向けた課題について考察がなされた。最後に吉田昌幸会員から地域産業連関の仕組みを体験できるタブレットを使用したゲーミングシミュレーションが紹介された。こちらは今後進化経済学の新たな学習ツールとなる可能性があるものである。

今年度もジャンルを問わず多様な報告がなされ、活発な意見交換もなされた。ここ数年は札幌周辺での開催が続いていたため、次年度の部会は東北地方での対面開催を予定している。

文責 小林 重人(札幌市立大学)

■ 観光学研究部会

第 48 回研究会

日付：2022 年 12 月 16 日（金）

場所：金沢大学サテライト・プラザ 1F

講演：仁ヶ竹亮介（高岡市立博物館）「高岡の成り立ちと推移 ～金沢との関わりを意識して～」

第 49 回研究会

日付：2023 年 3 月 17 日（金）

場所：富山大学高岡キャンパス

講演：Gene Kim（ハーバード大学大学院博士課程）「スケトウダラ漁から見た朝鮮と日本帝国の歴史（英：A pollock history of Korea in the Japanese Empire）」

2023 年度はいよいよコロナも収束し、観光産業の活性化が期待される。本研究会も積極的に活動していきたい。

「進化経済学」のオンライン連続模擬授業

JAFEE 通貨・進化経済学教育関連企画としまして、4月から7月にかけての第1・第2金曜の夜 21 時より 8 回にわたり、進化経済学のオンライン模擬授業を行いました。内容は、専修大学経済学部で行われている、赤本と（まだ出てない！）緑本を使った進化経済学の通年授業（現代経済学科での吉田担当分）を圧縮してオンラインで再現するというもので、90分までにオチがつく授業とミニ懇親会をセットで開催しました。

進化経済学とは何か、どう教えられるべきか、についてはもちろんこの学会全体で統一的な合意があるわけでもありませんし、赤本・緑本メンバーにかぎっても担当する人によって内容は様々だと思います。実際、同じ専修大学でも、生活環境学科で進化経済学科 1・2 を担当されている西部前会長と私ではかなり味付けが違います。今回の模擬授業は、もし赤本と緑本を使ったら、こんな通年講義もできるよという一つの実践例紹介です。

また、これは通常の研究報告イベントではなく、ちょっとしたネタをおすそ分けしあおうという学会コミケの延長線上で、授業ネタも融通し合えればという趣旨の企画でもありました。オンラインならば参加者・発表者双方にとって負担も圧倒的に少ないですし、単発でも 2, 3 回でも、やってみようかと思われましたらぜひご連絡ください。喜んで会場設営いたします。

各回を簡単に紹介します。

- 1) 進化経済学の紹介（通常の経済学はどうつまらないのか。有限能力主体と不可逆的時間を前提に構築される経済学の概要を紹介。授業の導入部分の提案。）
- 2) 科学方法論（モデルと相性問題。進化経済学は 1 から経済学を構築せざるを得ない論理的な理由。経済学という科学を理解するための三層モデル。）
- 3) 進化経済学の基礎概念（基礎概念とそこから派生する諸概念の関係。強調の仕方、対象の選び方によって、この後の基本モデル以降の展開が違ってくる。進化経済学構築の分かれ道。）
- 4) 進化経済学の基本モデル（定型調整行動主体の不可逆的時間下の相互作用系モデルの構築手順。2 主体モデルと多主体モデルでその一般的なかたちでの振舞いを考察。）
- 5) マクロへの応用と VBA プログラミング（基本モデルの経済学への具体的な適用例として、有効需要の原理をその経済学史的背景と併せて再考。）
- 6) 再生産総過程への応用と経済政策（売上に引っ張られる生産額調整行動を最終財限定で考える理由はないことから、G-W-G'過程を再生産総過程に展開した S-モデルを構築。これをエクセルで実現し、最低賃金政策を例にした経済政策の可能性についても考察。）
- 7) 制度としての貨幣（再生産総過程の支払を実現している制度としての貨幣。債務の決済システムとしての貨幣観を解説。システムの拡大/縮小を可能にしているシステムレゲルのバッファとしての貨幣制度を考察する。）

- 8) 実践例としての地域通貨運動と経済思想としての進化経済学（貨幣観の変更によって地域通貨運動や学会の JAFEE 通貨企画の理解がどのように変わるのか解説。再生産総過程システムの貨幣制度以外の背景についても考察し、物々交換に由来を持つ標準的な経済学の社会の考え方と、進化経済学がとりうる経済思想の違いを考察する。）

上述のように、これは進化経済学授業の一実践例なのですが、有限能力主体と不可逆的時間を出発点にして統合的に構築することが可能な進化経済学を伝えること、とくに体系性を意識して構成しました。もちろん、同じ基礎概念群に立ちつつも、別の形で幹を伸ばしていくことも可能で、それは進化経済学の豊穡な多様性を生み出していると思います。

なお、今回のオンライン模擬授業で利用した場所は下記の Gather.town です。

<https://app.gather.town/app/FfKzRGTKdFhnAiMb/EvoecoLectures>

ファイル共有や記録のこともあって、この中にある教室に Zoom リンクを貼り、授業の部分はそちらで行いました。毎回 10 名ほどの方が参加してくださいました。改めて心より御礼申し上げます。



今回の授業部分の記録は整理して、また学会コミケで出品しようと思っておりますので、まだまだ登録の少ない JAFEE 通貨、ぜひご登録くださいますようお願いいたします。

吉田雅明 + JAFEE 通貨運営員会

編集後記

暑い日が続きます。

今年度のオータムコンファレンスおよび全国大会は福井が会場です。福井はものづくりの集積地で、産地イベントを活発に行なっている地域です。大会への参加を通じて、ぜひ、福井のまちの雰囲気を感じてみたいと、楽しみにしています。

ニューズレター編集担当 横田宏樹（静岡大学）